

【 第7回 男子ユースアジア選手権 】

2016年8月27日～9月5日 バーレーン・マナーマ

試合結果報告 8 月 28 日 (日)

J P N	V S	I R Q(イラク)
12	前半	15
15	後半	7
0	第1延長	0
0	第2延長	0
27	合計	22

個人得点

名前	前半	後半	第1延長	第2延長	合計
高光 凌	0	0			0
高野 颯太	1	1			2
浅川 律樹	0	0			0
阿部 奎太	2	4			6
部井久 アダム勇樹	3	1			4
服部 将成	0	0			0
徳田 廉之助	3	1			4
藤川 翔大	0	0			0
村木 幸輝	1	2			3
藤田 龍雅	1	3			4
堀田 陽大	0	0			0
矢野 世人	1	3			4
助安 大成	0	0			0
若狭 圭悟	0	0			0
狩野 優太	0	0			0
					0
					0
					0
合計	12	15	0	0	27

戦評

男子ユースアジア選手権の2戦目はイラクと対戦。イラクはこの試合が大会初戦のため、メンバー構成など情報が無い状況での試合であったが、これまで取り組んできたハードなコンタクトDFの徹底を確認し、試合に臨んだ。立ち上がり動きの固い日本に対し、イラクはライン際にボールを集め3連取し、試合の主導権を握る。何とか立て直したい日本だが、OFのミスから2連続で速攻を決められ、前半7分、1-6と大きくリードを許す。タイムアウトから徐々に落ち着きを取り戻してきた日本は追い上げを見せるが、要所でのシュートミス・テクニカルミスが響き、なかなか点差が縮まらない。それでも日本は、LB部井久の破壊力抜群のロングシュートやRB徳田のスピードに乗ったカットインで食らいつき、12-15の3点ビハインドで折り返す。後半、現地在住日本人の方々の声援に後押しされるかのように、日本チームの反撃が始まる。DFのスペシャリスト助安の運動量あふれるDFにチーム全体が連動し始め、持ち味のハードなコンタクトDFが機能し始める。そこからPV高野のポストシュート・LB阿部のロングシュート、GK堀田のナイスセーブからLW矢野の速攻で3連取し、後半3分同点に追いつく。そこからイラクに2連取されるものの、CB村木らで4連取し、後半10分、ついに逆転に成功する。その後も日本のハードなコンタクトDFが勢いを増し、GK堀田もナイスセーブを連発。その間、OFでは中央エリアでの2対2を起点にイラクDFを攻略し、徐々にリードを広げ、最終的には27-22で勝利した。立ち上がりの悪さや、自分たちのペースに持ち込むまでに時間を要したことなど課題もあったが、イラクの攻撃を後半7分に抑えたDFなど、収穫も多かった試合であった。

報告記入者 :

古家 雅之